

プロ野球における環境への取り組み

計量分析ユニット 八馬 利彰

計量分析ユニットに所属していることから、普段の仕事ではエネルギーに関連するデータを扱うことが多い。このコラムでは、プロ野球における環境への取り組みに関するデータを紹介します。

まず、東日本大震災の影響で今シーズンの開幕が 4 月 12 日に変更となり、節電に協力するため「試合開始時より 3 時間 30 分を過ぎて新しい延長回には入らない。同点の場合は引き分け試合とする。」というルールが 2011 年度限定で追加された。これはご存知の方も多いただろう。これだけではなく、日本プロ野球機構では「LET' S 省 TIME！」を 2011 年のスローガンにして、試合時間を抑えることで温暖化を抑える活動を実施している。目標は 9 回終了試合の平均試合時間 3 時間以内（2 時間 59 分）で、2010 年から 14 分短縮するというものである。また、これにより、電力を 185,756kWh（標準家庭の約 5 年分）削減できるとしている。具体的な活動として、以下の 9 カ条を掲げており、選手がきびきびと動き、試合がスムーズに進行することはファンにとっても、喜ばしいことである。

LET' S 省 TIME！ 9 カ条（選手向けポスター）

1. **15 秒以内**に投球！（無走者時・捕手からの返球後）
2. 攻守交代は**全力疾走**！
3. 投手は**速やかに**マウンドへ！
4. 打者紹介**アナウンス中に**バッタース・ボックスへ！
5. バッタース・ボックスを絶対に**外さない**！
6. **予備バット**をベンチ内に用意！
7. **むやみに**タイムを要求しない！
8. **無用な**ボール交換禁止！
9. 審判員には**素直に**従う！

出所：日本野球機構オフィシャルサイト

平均試合時間（9 回終了試合のみ）の過去の推移を見ると、2011 年の目標である 2 時間 59 分は 1991 年以降の最短である 1995 年と同じ水準である。また、直近 10 年の平均は 3 時間 12 分である。2011 年の 6/13 時点での実績は 3 時間 3 分で、目標こそ達成できていないものの平均試合時間は短縮されており、活動の成果はあがっていると言えよう。また、2011 年の 6/13 時点での実績をチーム別にみると、セ・リーグで達成しているチームがないのに対し、パ・リーグでは 3 チームが目標を達成しており、交流戦の成績だけでなく、こちらでもパ・リーグがセ・リーグを圧倒している。この要因として、パ・リーグの方が優秀な投手が多いこと、DH 制による投手交代回数の少ないことなどが考えられる。

以上